

【提出機関】 Animal Health Laboratory, University of Guelph (カナダ)

【 症例 】 キソデボウシインコ (*Amazona amazonica*) , 雄

歴史

- ・ 40年前
- ・ ヒナを購入
- ・ 同居鳥なし

りん告

- ・ 止まり木から落下
- ・ 重度の衰弱
- ・ 姿勢の非保持

血液検査

- ・ 白血球増加
- ・ 偽好酸球増加
- ・ 肝酵素の上昇

既往歴

- ・ 羽むしり
- ・ ビタミンA欠乏

身体検査

- ・ 無気力
- ・ 腰痛
- ・ 爪の軽度の過伸長

安楽殺

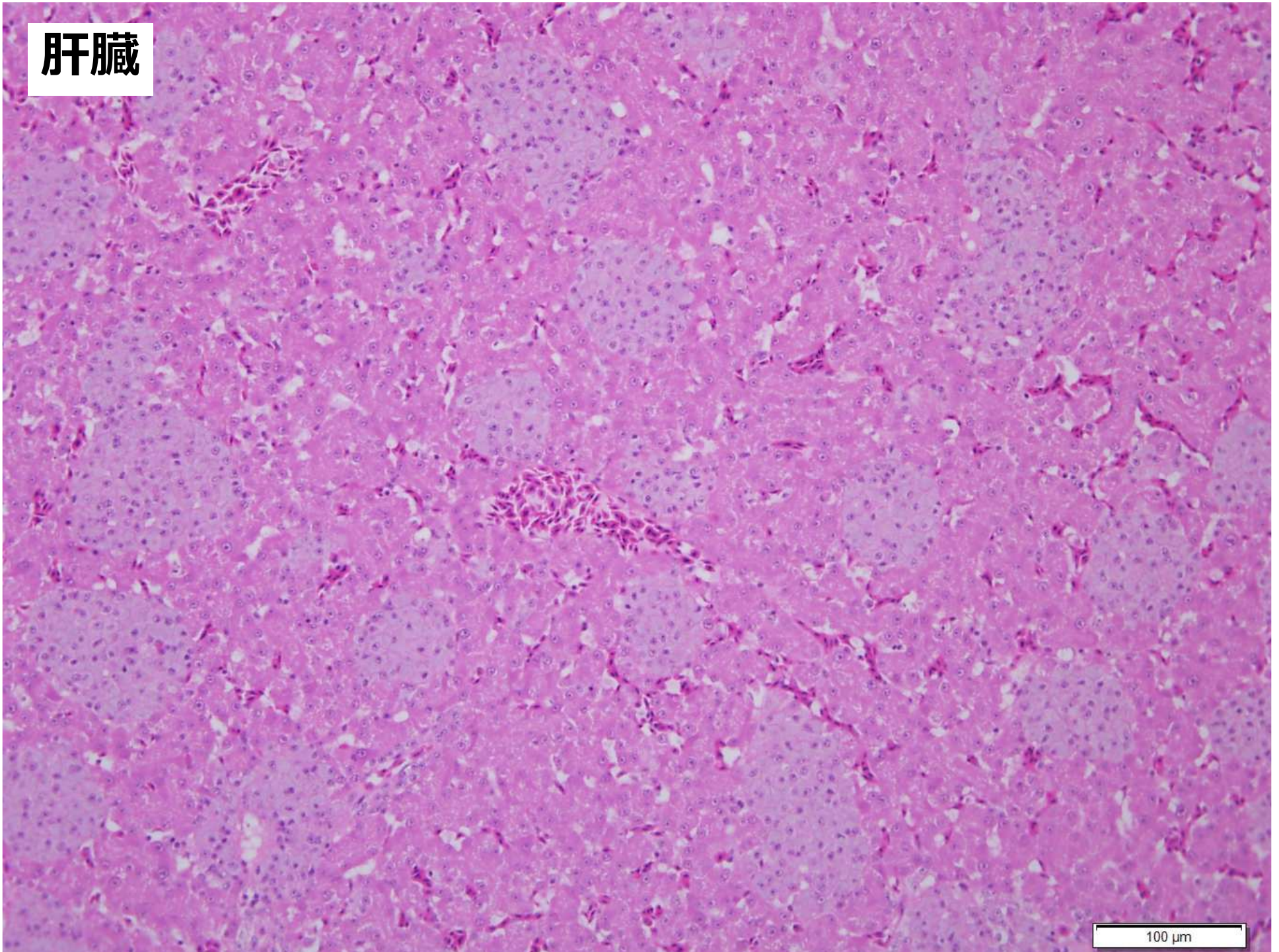
肉眼解剖所見

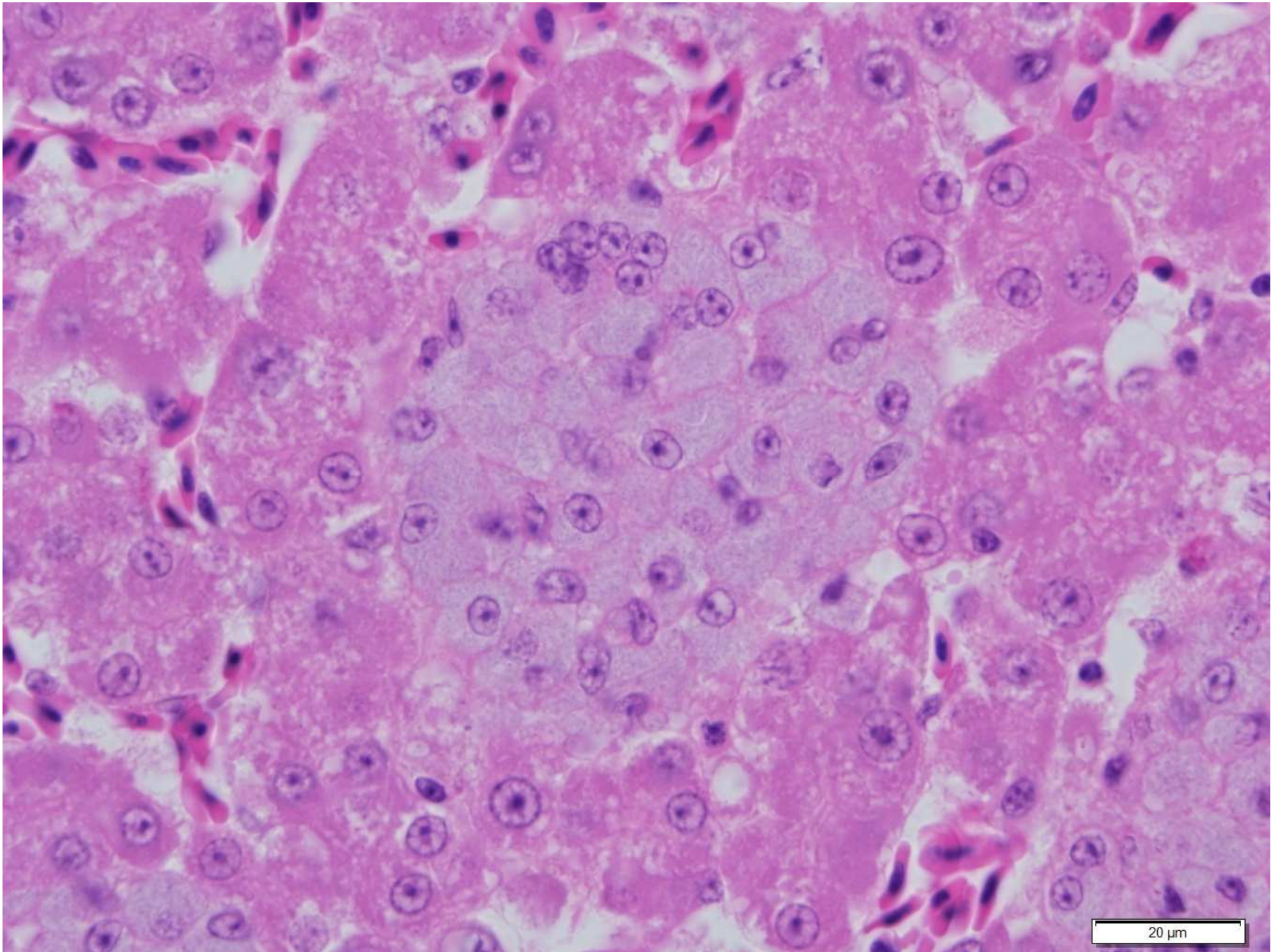
- ・ 削瘦, 皮下脂肪, 筋肉量の減少
- ・ 羽の欠落
- ・ 副鼻腔の肥大
- ・ 肝臓の肥大, 黄褐色斑状結節
- ・ 胃腸管は空

検査結果

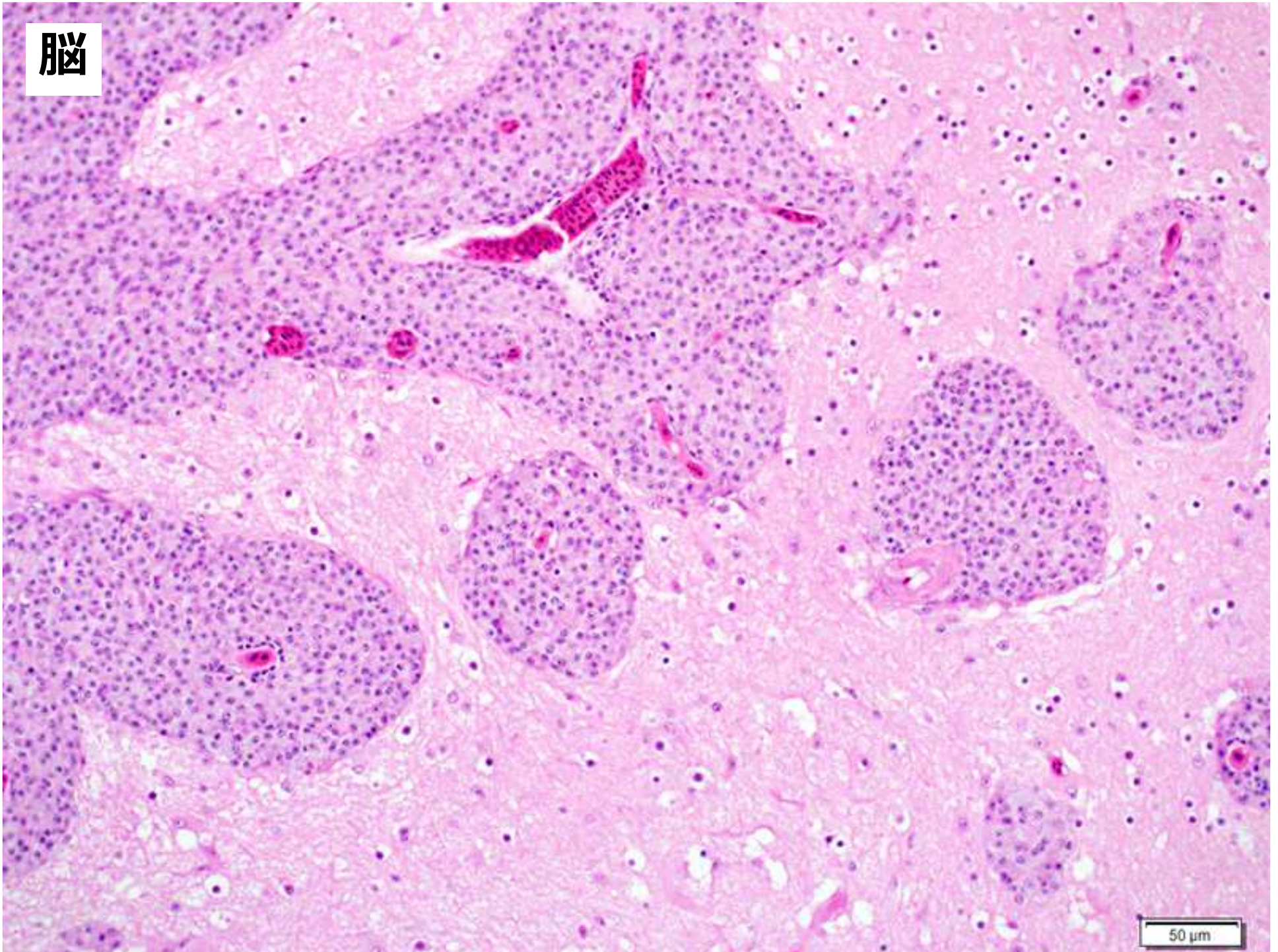
- ・ 肝臓, 脳 : Ziehl-Neelsen染色陽性
- ・ 細胞質内細菌の観察
- ・ 肝臓と脾臓の組織塗抹で抗酸菌4+
- ・ 遺伝子検査 : *Mycobacterium genavense* +
- ・ 培養 : 分離されず (7週間)

肝臟

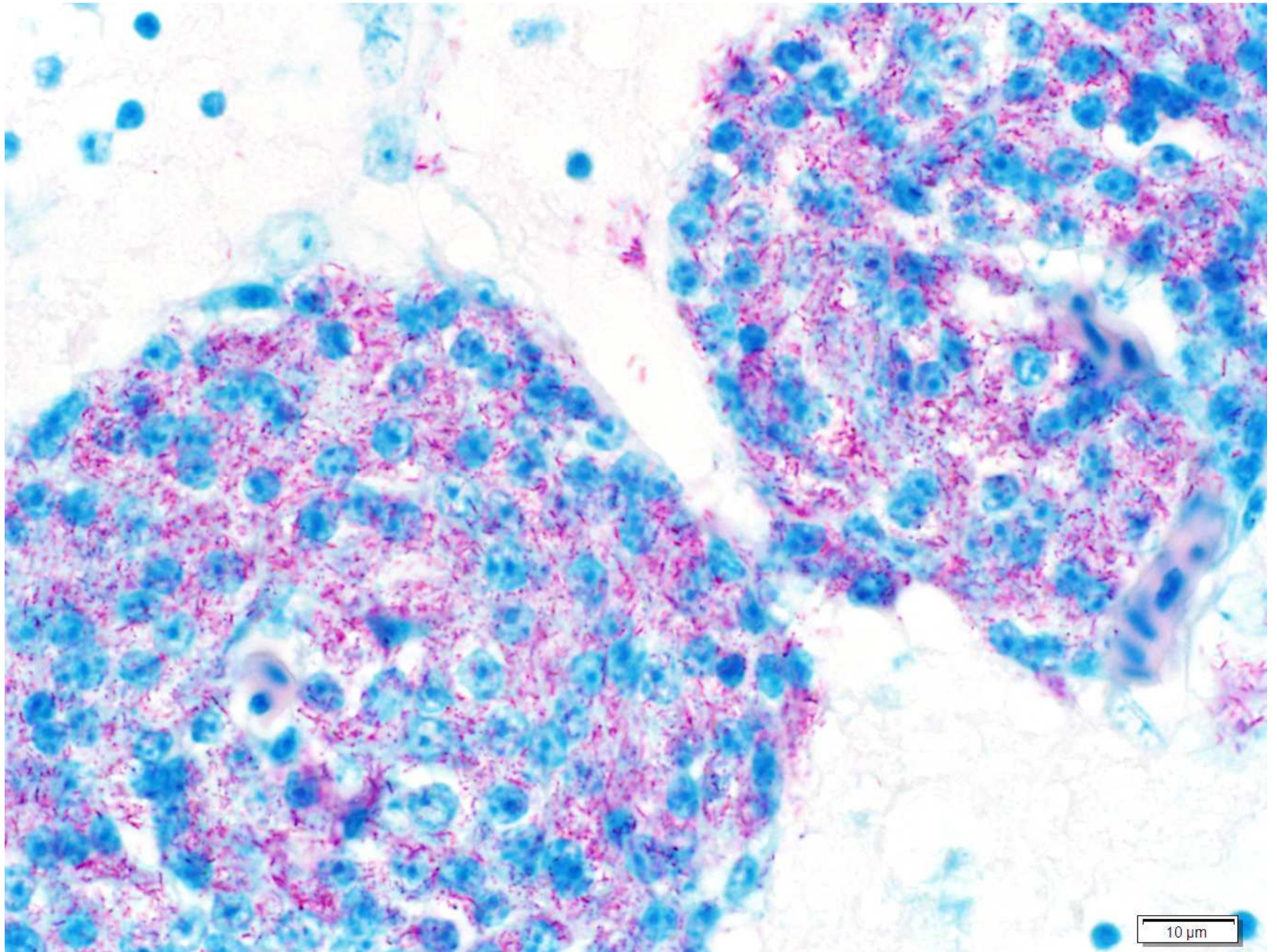




脳



50 μ m



肝炎, 多巣性結節性, 組織球性.
細胞質内桿菌 (*Mycobacterium genavense*) を伴う.

Hepatitis, multifocal nodular, histiocytic with
intracytoplasmic bacilli (*Mycobacterium genavense*)

肝炎, 肉芽腫性 (組織球性), 多巣性から癒合性,
多数の細胞質内桿菌が特徴的.

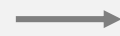
Hepatitis, **granulomatous** (histiocytic), multifocal to **coalescing**,
marked with numerous intracytoplasmic bacilli

鳥結核病

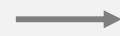
病原体：非結核性抗酸菌群



M. avium



M. intracellulare



M. genavense



その他：10種類以上が同定

病原性

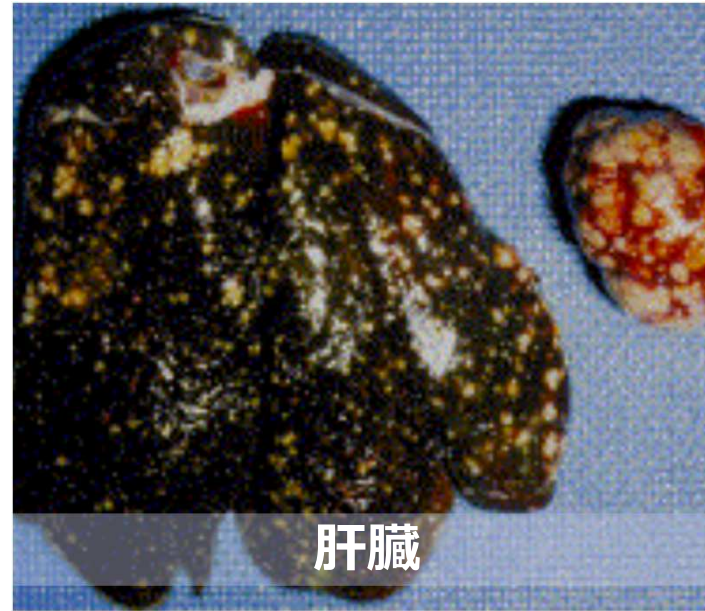
アメリカの動物園の報告

- ・有病率（894種） : 1.2%（172/13,976羽）
- ・有病率（死後の組織評価実施） : 3.7%（172/4,604羽）
- ・ *M. avium* subsp. *avium* : 60%, *M. intracellulare* : 22%,
M. genavense : 1%, *M. avium* complex : 16%
- ・ 76%が呼吸器病変（呼吸器病変のみ27%）
- ・ 58%が腸病変（腸病変のみ8%）

肉眼病變



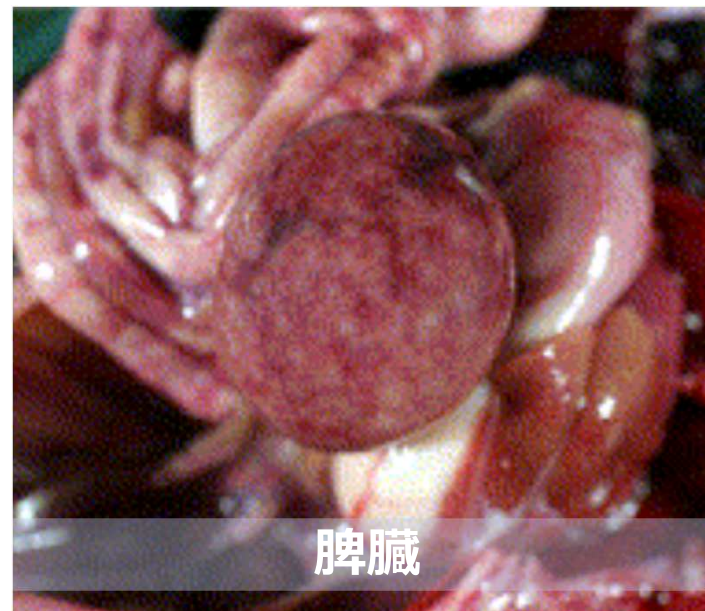
肺



肝臟



腸管



脾臟

疫学（日本）

日本における動物園飼育鳥類の鳥結核病の発生例

年	場所	動物	例数(羽)	原因菌	備考
1935	東京都	フラミンゴ	1	<i>M. avium</i> 血清型1型	動物園飼育
1950	東京都	アネハヅル	1	<i>M. avium</i>	動物園飼育
1959	愛知県	金銀鶏	1	<i>M. avium</i>	動物園飼育
1982	秋田県	アオカケイ	1	<i>M. avium</i> 血清型1型	動物園飼育（中国産）
1983	秋田県	アオカケイ	1	<i>M. avium</i> 血清型1型	動物園飼育（中国産）
1994	東京都	ヒメウズラ	1	<i>M. (avium)</i> 血清型9型	動物園飼育（国内産）
1996	長野県	アイサ	2	<i>M. avium</i> 血清型1型	動物園飼育（輸入物）
2001	埼玉県	カブトホウカンチョウ	2	<i>M. avium</i> 血清型2型	動物園飼育（輸入物）

疫学（日本）

表2 野鳥の糞便からの非定型抗酸菌分離状況⁴³⁾

Runyon の分類 ⁵⁵⁾	分離菌種	駅前ハト (n=240)	神社ハト (n=240)	食肉処理場ハト (n=240)	食肉処理場カラス (n=240)	合計 (n=960)
I	<i>M. kansasii</i>	—	—	1 ^{a)}	4	5
II	<i>M. gordonae</i>	—	—	2	3	5
III	<u>MAC^{b)}</u>	—	—	<u>2</u>	<u>13</u>	15
	<i>M. nonchromogenicum</i>	—	—	—	3	3
	<i>M. gastri</i>	—	—	—	2	2
	同定不能	—	1	—	1	2
IV	<i>M. flavescens</i>	1	3	—	—	4
	<i>M. chelonae</i>	1	—	2	1	4
	<i>M. thermoresistivile</i>	1	—	—	—	1
	<i>M. obuence</i>	—	1	—	—	1
	同定不能	1	—	2	6	10
計		4	5	10	33	52

a) 分離菌株数

b) MAC : *M. avium* complex 食肉処理場ハトから血清型4型 (1株)、6型 (1株) が、食肉処理場カラスから血清型4型 (2株)、6型 (1株)、8型 (4株)、型別不能 (6株) が分離

環境および野鳥に分布する非定型抗酸菌
 日本獣医師会雑誌 50 巻 (1997) 7 号
 森田 幸雄ら